

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から

3月は卒業や異動の季節だが、ダイヤ改正が行われるものこの時期だ。今月15日に行われたJR四国のダイヤ改正では、パターンなどが、74年に江川崎―若井(蓬

川—中村間の駅）間が開

50年前の時刻表

そこで、昔の時刻表をめぐりつていると、1975（昭和50）年3月の時刻表に予土線経由で高松—宇和島間を結ぶ列車が掲載されていった。今回はこの列車について紹介したい。

予土線の歴史は宇和島鉄道に始まる。1914（大

正3) 年に宇和島—近永間
が、続いて23年に近永—吉

して、現在の予土線が誕生

予土線が開通したころの
四国は、特急が登場して間
もない時期であり、本数も
した。

「時刻表」昭和50年3月号
—県歴史文化博物館蔵

間であれば、予讃線の方が短時間である。予土線経由の快速列車を設けたのは、道路整備がまだ進んでなかつたため、南予と高知の利便性を鉄道で図ろうとしたのではないだろうか。今では想像もつかないルートだが、このような“裏わざ”的ルートを再発見したり、再認識したりするのも時刻表のおもしろさであり、醍醐味（だいごみ）ともいえ
るだろう。

間であれば、予讃線の方が短時間である。予土線経由の快速列車を設けたのは、道路整備がまだ進んでなかつたため、南予と高知の利便性を鉄道で図ろうとしたのではないだろうか。今では想像もつかないルートだが、このような“裏わざ”的ルートを再発見したり、再認識したりするのも時刻表のおもしろさであり、醍醐味（だいごみ）ともいえ
るだろう。

高松—宇和島予土線で

少なかつた。四国ではまだ
まだ急行が中心であった。
そのような中で、74年の予
土線開通に合わせて、高松
—窪川間を急行あしそり」
に連結させ、窪川—宇和島
間を単独快速として、直通
する列車が設けられた。
75年3月のダイヤ改正を
掲載している本資料による

予土線を走る快速は窪川止
まりとなり、続く86年11月
のダイヤ改正で快速列車は
廃止された。高松—宇和島

少なかった。四国ではまだ
まだ急行が中心であった。
そのような中で、74年の予
土線開通に合わせて、高松
—隼人間を「急行（あくゆう）」

到着する。一方、上りは9時24分に快速として宇和島を発車、11時21分に瀬戸川、そこで急行「あしづり」3号に連絡され、3時7分に高田、

掲載許可番号: d20230301-04